

あ  
い  
た  
な  
ん

# 議会

だ  
よ  
り



第6号  
2026.6

住民とともに歩む議会を目指して



公共施設の活用例を見学しました。

大活躍!! 旧御荘学校給食センターを水産加工場に  
聞きたい知りたい議会のこと  
議会が聞く 住民の意見  
南宇和高校魅力化ワークショップ始まる

p2-3  
p4-5  
p6-7  
p8



町ホームページで  
過去の紙面も  
ご覧いただけます。

二次元コード  
を読み取って  
ご覧ください。



# 魚を売る、その先へ。

ハマスイ・濱田嘉之社長が描く、愛南の海の未来

有限会社ハマスイ  
よしゆき  
濱田 嘉之 代表取締役社長

御荘和口地区に整備された新たな水産加工場は、令和8年2月から稼働を開始しました。この施設は、旧御荘学校給食センターを改修し、ふるさと納税の返礼品を製造する拠点として活用されています。現在は約8.3億円の寄附額につながる商品を生み出していて、地域資源を生かした新たな取り組みとして注目されています。有限会社ハマスイ代表・濱田嘉之社長は、仲買として漁業を支えながら、加工による付加価値の創出、さらには高校生と連携した商品開発など、人づくりにも力を入れています。

そこには、「魚を売る」ことの先にある、愛南の未来を描く確かな意志がありました。

## 漁師を支え続ける責任

### — 創業から加工への挑戦

濱田社長は、高校卒業後に水産業の現場で経験を積み、35歳で独立しました。地元深浦地区で育ち、地元で働き家庭も築いていたので、「地域のために何かしたい」という思いはずっとありました。ただ、創業当時はそんな余裕もなく、家族を食わせること、社員の生活を守ることに、そればかり考えていたそうです。

初めは仲買として魚の仕入れと販売を中心に事業を展開していましたが、漁師の高齢化や水揚げ量の減少という現実に直面します。

## 「このままでは成り立たない」

そうした危機感から、加工への転換に踏み出しました。現在は、水揚げされた魚の半分以上を自ら買い支えることで価格を守りつつ、加工によって新たな価値を生み出しています。鮮度の高さに加え、衛生管理や品質基準を高め、海外にも通用する体制を整えてきました。その根底にあるのは「漁師の思いを届ける」という信念です。魚は単なる商品ではなく、漁師の営みそのもの。だからこそ、その価値を正しく伝え、次の世代につなぐことが、自らの役割だと語ります。

## 工場から広がる学び

### — 高校生が描くその先

濱田社長の取り組みの中で、特に注目されるのが高校生との連携です。魚の加工過程で出る「あら」などの未利用資源を活用したスープを開発し、大阪万博に出品しました。宇宙食向けの保存食の開発にも取り組んでいます。高校生と共にその可能性を探る挑戦が続けられています。

こうした取り組みの中で、高校生自身が地域の課題に向き合い、自ら考え、形にしてい  
く姿が生まれています。

単なる学びではなく、「自分たちが地域をつ  
くっていく」という意識の芽生えが、そこ  
にはあります。

地域の現場と関わることで、将来の進路や  
生き方を考えるきっかけにもなっていて、こ  
うした経験が資源豊かな愛南町に将来戻って  
起業してくれる選択につながることも期待さ  
れています。

地域の産業と最先端の研究がつながるこの  
取り組みは、単なる体験にとどまらず、「地元  
の資源に価値を見出す力」を育てています。

## 地域と共に働く

### ― 広がるつながり

工場では外国人スタッフも働いています。

現在は複数の住居に分かれて生活していて、  
日常は職場と住まい、買い物など限られた範  
囲での行動になりがちです。

濱田社長は、そうした状況を踏まえ、「地域  
の中で関わりを持つてほしい」と話します。

実際に地域の行事へ参加する機会もつくり、  
最初は距離のあった地域住民との関係も、交  
流を重ねる中で少しずつ変化が見られてきま  
した。

外国人材が増えていく中で、地域との関係  
づくりは重要な課題の一つです。

濱田社長は、日常の中で自然に関わりが  
生まれる環境を整えていくことが、これからの  
地域づくりにもつながっていくと考えていま  
す。

## 地域の資源を未来へ

### ― 循環する仕組みづくり

水揚げ量の減少や漁業者の高齢化など、漁業を取り  
巻く環境は厳しさを増しています。そうした中で、地  
域の資源に新たな価値を見出し、持続可能な形で生か  
していく取り組みが進められています。

ハマスイでは、仲買として魚の価格を支える役割を  
担う一方で、加工によって付加価値を高め、安定した  
流通につなげています。

また、高校生との商品開発や教育的な取り組みを通  
じて、人材育成にも関わっています。

漁業、加工、教育、人材、そして地域。

それぞれを個別に捉えるのではなく、一体として循  
環させていくことが重要であると考えられます。

御荘和口地区の工場は、そうした取り組みをつなぐ  
拠点として、地域の中で新たな役割を担っています。



## 地域と共に

### 次の世代へ

御荘和口地区の新しい工場は、単なる  
生産の場ではありません。

漁業を支え、若者の挑戦を生み、地域  
の中に新たな価値をつくる拠点です。

## 魚を売る、その先へ。

その取り組みは、愛南の未来へと確実  
につながっています。

濱田社長は、こう語ります。

「地域に支えられて24年のハマスイで  
す。これからは地域に恩返しを大切に考  
えて、いろいろな場面で地域貢献してま  
います」

その言葉には、これまで支えられてき  
た地域への感謝と、これからの責任を担っ  
ていく覚悟が感じられました。

# 3月議会

## 「そこが聞きたい」5名の議員が一般質問

各議員が、地域公共交通や教育、環境等の町政の広い範囲にわたって一般質問を行いました。



金繁 典子



Kaneshige Noriko



**問** 高齢者タクシー利用の待ち時間短縮のため、他の自治体が行う午後の利用を促す買い物ポイント付与など奨励制度の導入、第二種免許取得費用の補助を検討しては？

**答** 奨励制度は考えていきたい。免許取得補助は研究中。

**問** 部活や、自宅から近い学校を希望などで校区外通学する児童生徒に通学補助しない理由は？

**答** 校区内通学をする子どもとの公平性のため。

**問** 南宇和高校の学生寮建設について、厳しい財政状況の下、町民への説明、代替案の検討は？

**答** 町民に説明会を行う。寮は新築でないと生徒募集が厳しい。

池田 栄次



Ikeda Eiji



**問** 生活道路として使用している河川および水路の鉄筋コンクリート床版の維持管理について

**答** 道路としての利用状況や地域生活、河川機能への影響などを総合的に勘案しながら、必要な点検の実施や補修の在り方について整理し計画的な維持管理の方向性について調査研究する。

**問** 選挙の投票所として使用されている公民館や集会所の出入り口の手すりの設置について

**答** 公民館については、公民館事業で活用する施設であるので手すり等の改修を順次実施する。投票所として活用する集会所に限り、設置する方向で検討する。

石川 秀夫



Ishikawa Hideo



**問** 南宇和高校の寮建設について、県への陳情や要望、県事務所の撤去と駐車場の代替地検討、国の補助金目的外使用、町民への説明責任をどのように果たすのか

**答** 県への要望は、駐車場の代替地として県有地の活用などを適宜要望し、国の補助金は、国と確認を行いながら進める。町民への説明会は適切な時期に開催する。

**問** 財政基盤を強化するための施策について人件費や公債費の抑制施策は？

**答** 定員管理については、令和11年度までに正職員数10名削減目標、地方債残高は順調に減少しており今後も適正な発行に留意し、健全な財政運営に努める。

山本 美佐



Yamamoto Misako



**問** 産後ケア事業の利用しやすさと産後うつ予防について

**答** 産後ケア事業は母子健康手帳交付時や保健師訪問等で周知し、保健福祉課窓口で申請を受け付け、訪問やライン相談などで必要な方へ支援している。

産後うつ予防と早期発見のため、今後はライン等での情報発信を強化し、県事業を踏まえ訪問型ケアについて情報収集する。

また医療機関と連携し産婦健康診査等でリスク把握を行い、周囲の理解促進と安心して子育てできる環境づくりに取り組む。

二次元コードを読み取ると一般質問の動画が視聴できます。



**問** 南宇和高校の魅力化推進の成果等

**答** 公営塾の利用者は約3倍に増加し進学率向上等の成果が出ている。

生徒の全国募集に当たっては、特色ある学びや部活動充実を支援し、防災や海業など地域特性を生かした教育を提案していく。

**問** 人口減少社会における生活支援と環境行政

**答** 一こみ出し困難世帯の実態を把握し、集積所新設などを検討する。

人口減少を見据え、持続可能な体制を整え、安心して暮らせる環境行政を推進する。

嘉喜山 茂



Kagiyama  
Shigeru

■ 町議会

議会広報特別委員会



町ホームページ



総務文教常任委員会

令和7年4月から新たな委員6名でスタートし、議会だよりを本会議ごとに年4回発行。

2月の研修では、広報の役割は何か、具体的にどうすれば住民に伝わりやすくなるか、「住民が主役の議会だよりへ」変わるには?など議会広報の在り方を学びました。

また3月議会において、常設の常任委員会となりました。

廃校施設の利活用について町内および徳島県三好市を視察し、現状と課題を整理しました。

- ・学校備品の適切な管理と有効活用
- ・教員住宅の資産整理
- ・横断的な専門部署の設置
- ・民間活力導入の必要性

廃校施設の利活用を通して町の将来を見据え、計画的かつ実効性のある取り組みが進められるよう報告しました。

■ 一部事務組合議会

宇和島地区広域事務組合議会

3月2日、宇和島地区広域事務組合議会定例会が開催され、報告7件および令和8年度一般会計予算（議案第5号）ほか6議案が原案どおり可決されました。

同予算の総額は47億8,153万1千円（対前年度比23.7%増）で、消防費や老人福祉施設費などが計上されています。

また、火災予防条例の一部改正や施設の指定管理者の指定も可決されました。

篠山小中学校組合議会

2月27日、第1回篠山小中学校組合議会定例会が開催され、次の2議案が可決されました。

- ・令和7年度篠山小中学校組合一般会計補正予算（第1号）について
- ・令和8年度篠山小中学校組合一般会計予算について

また、議会に先立って行われた協議会では、閉校までの業務等について事務局から説明があり、情報を共有しました。

# 議会が聞く 住民の意見

## 南宇和高校学生寮建設に係る 議会報告会を開催

南宇和高校の生徒数減少に伴う将来の存続が課題となる中、町では全国から生徒を受け入れるための全国募集に向けた学生寮整備の検討が進められています。これに関し、町民団体から議会に対し、町民への説明責任を求めるとともに説明会開催の要望書が提出されました。これを受け、議会では本事業に関するこれまでの協議経過等を町民の皆さまにお伝えする必要があると判断し、2月15日、役場本庁において議会から町民への報告会を開催しました。

報告会では、南宇和高校の現状や全国募集の概要、学生寮整備の目的について説明するとともに、これまで町から議会に説明された内容として、学生寮の建設方法としてムービングハウス方式が検討されていること、整備費および運営費の試算、全国募集に伴う経済効果の見込みなどを報告しました。また、本事業は現時点において決定されたものではなく、検討段階にあることについても説明しました。

参加者からは、事業の必要性をはじめ、財政負担の見通し、寮の運営体制や安全管理、建設場所に関することなど、多岐にわたるご意見が出されました。議会では、今回寄せられたご意見を踏まえ、今後も本事業について協議を行うとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たしていきます。



# 令和8年第2回・第3回 「議会報告・意見交換会」を開催



議会では、2月4日に城辺地域（役場本庁）、2月18日に御荘地域（御荘文化センター）において、議会報告・意見交換会を開催しました。

両地域とも議会活動の報告に続き、城辺では「防災」と「地域公共交通」、御荘では「防災」をテーマに意見交換を行い、今後の体制のさらなる充実に向けて率直なご意見が寄せられました。住民の安心・安全な生活環境を守るため、地域の実情を踏まえた活発な話し合いとなりました。ここでは、その主な内容をご紹介します。

## ● 地域防災体制の充実（城辺）

地区によって防災体制に差があり、防災士や避難場所、役割分担が十分に周知されていないとの意見がありました。また、避難場所の設備や備蓄の充実など、防災体制の強化を求める意見がありました。

## ● 防災士の連携強化と情報共有（御荘）

防災士の連絡協議会の設立など、防災士同士の連携強化の必要性が示されました。また、防災士の配置状況を地域で共有し、防災意識の向上につなげることが重要であるとの意見がありました。

## ● 今後の防災体制の強化に向けて（両地域）

議会としても、町と連携しながら、地域の実情を踏まえた防災体制の強化に向けて取り組んでいく必要があるとの認識を共有しました。

防災について



## 地域公共交通 について（城辺）



## ● バスの利便性向上

通院後すぐに帰りの便がなく待ち時間に困っていることや、バス停に日陰や風よけがなく利用しづらいとの意見がありました。

## ● タクシーの利用環境の改善

通院時間帯などに利用が集中し、タクシーの待ち時間が長いことから、車両や運転手の確保など、利便性向上を求める意見がありました。

議会では、今回の意見交換会で頂いた貴重なご意見を踏まえ、町民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、引き続き取り組んでいきます。

# 傍聴 においでください!

議会の本会議や委員会を傍聴することができます。

## 本会議(定例会及び臨時会)の傍聴

傍聴人受付票に住所・氏名を記入し、議場の傍聴席で傍聴してください。

また、本会議は専用サイト(愛媛CATV)でインターネット中継を行っています。



愛媛CATV

## 委員会の傍聴

傍聴人受付票に住所・氏名を記入し、各委員会が開催される会議室で傍聴してください。

今後の予定

**6月3日(水)~12日(金)**

**6月定例会**

- ・正式には議会運営委員会での協議の上、本会議で決定します。
- ・本会議の開催日は町ホームページに掲載します。

## 編集後記

### 「議会だより」第6号、いかがでしたか?

世界では、各地で紛争や緊張が続く、国際秩序の揺らぎやエネルギー・食料価格の高騰など、経済不安が広がっています。為替や物価の変動は家計や地域経済にも影響を及ぼし、安全保障への関心も一層高まっています。こうした状況は決して遠い出来事ではなく、私たちの暮らしや地域の在り方に直結する課題であり、平時からの備えや危機管理の重要性が改めて認識されています。

愛南町では、令和8年度当初予算が成立し、南宇和高校魅力化をはじめ、地域活性化や産業振興、防災・減災対策の充実など、未来への投資となる施策が本格的に動き出しました。安全で安心して暮らせる地域づくりと、持続可能なまちづくりの両立を目指す、着実な取り組みが求められています。

議会としても、地域の安全と発展を支える視点を持ち、住民の皆さまの声を的確に反映した議論と政策提言に努めていきます。引き続き、議会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。(嘉喜山)

## 南宇和高校魅力化 ワークショップ始まる

南宇和高校魅力化プロジェクトは、生徒の全国募集を含め、地域からの高い関心を集めています。

このワークショップは、その取り組みを地域の皆さんと一緒に考えるための話し合いの場として、「地域協働フェーズ」への移行を目指して開催されました。

令和8年度以降も継続的に協議を続け、高校・教育委員会・地域が連携し、魅力ある学校づくりを目指します。

去る2月26日に開催された、第1回ワークショップでは、令和8年度からの生徒の全国募集を見据え、それぞれの参加者の立場から「南光学」「学び」「部活動」「地域」「暮らし」の5つのテーマで学校の将来像について活発な意見交換が行われました。

本誌では今後、議会の視点でこの取り組みについて紹介していきます。

## 皆さんの声を聴かせて!

皆さんのなぜ?あれはどうなったの?これをしてほしい etc...

小さな声を集めて、大きな声にするのが、私たち議会の仕事です。町民の皆さんからの「声」をお待ちしています。二次元コードからどうぞ!

皆さんの声はこちらまで▶



## 編集委員会メンバーのご紹介

やる気満々!

田中	岡	尾崎	嘉喜山	山本	金繁
純樹	雄次	恵一	茂	美佐	典子